

NextChallenge

高田製薬の挑戦

患児を診る外来小児科と 小児薬物療法を支える製薬技術

8月31日・9月1日、福岡市で第23回日本外来小児科学会が開催される。本学会の学芸員であり、地元・福岡で小児医療の現場に携わり続けている下村小児科医院・下村国寿先生に小児医療の現状と問題点について聞いた。また、保護者にとっては悩ましい「子どもと薬」についても様々な指摘やアドバイスを聞いた。



第23回日本外来小児科学会年次集会会長
下村小児科医院院長 下村 国寿氏
しもむら・くにひさ 1979年九州大学医学部卒業
九州大学小児科勤務 国立別府病院勤務 浜の町病院勤務を経て、90年下村小児科医院開業

小児科専門医の 気づきを生かす

——小児医療の抱える課題
点とは、
少子高齢化の進展とともに、20年以上前から小児科医は減少しています。しかし、小児科全体の数は確かに減っているのですが、小児科専門医の数はむしろ増えています。以前は内科の先生が小児科を診たという形が一般的でしたが、やはり専門医に診察してほしいという保護者ニーズの高まりから、専門医が増加しているのです。
また小児科医の確保も存在します。例えばこの10年ほどは、新しく小児科医になる先生の半分を女性が占めています。女性が働きやすい環境をへり、産休・育休を調整することはかなり難しいです。
子どもは昼間より夜間に体調を崩しやすい。また休日保護者の不安心理が高まることなどから、休日夜間の診療でみる受診者の半数以上を子どもが占めています。子どもの健康のために24時間

子どもを取り巻く 環境づくりの指針を

——薬物は「子どものためのコンタクト」になる
「コンタクト」には指針がない意味があり、子どもにとって良い環境をつくるために、先頭に立ち服薬を振る舞う人々をメ

子ども用薬の さらなる進歩に期待

——薬自体も様々な改良を
いかにかい薬でも、用法や用量を守って飲んでもらえないのも増えてきています。例えば、小児科の薬は大人と違い、薬の必要性が理解しにくい子どもにきかんと服用させるには工夫が必要で、以前に比べると薬の量自体がかなり少なくなりました。例えば体重10kgの子どもに45mg必要だった薬が、1kgで済むようになり、1日3回の服用回数も減り、飲む回数も減り、飲む時間も長くなる傾向があります。

小児に用いられる代表的な剤形

| 剤形 | 特徴(メリット/デメリット) |
|-------------|--|
| 散剤(細粒剤・顆粒剤) | 一般的に処方される薬の剤形。1日2-3回など定期的に服用する場合や頓服(とんぷく)で服用する場合あり。苦みのある薬もあるため、飲ませ方の工夫が必要なものもある。 |
| シロップ剤 | 甘くて飲みやすい。散剤などの粉薬が苦手な患児に使いやすい。1回量の計量、用時とどう、雑菌混入に注意、保管に注意などが必要。 |
| ドライシロップ剤 | 用時溶解して使用する。長期投与が可能。散剤に比べて飲みやすく工夫されたものも多く、小児向け剤形として広がっている。 |
| 錠剤 | 大ききにもよるが、粒が飲める患児には使いやすい。 |
| 坐(ざ)剤 | 熱が出たときや吐き気のあるときなどに頓服で用いる。1回につき1/2本に削る場合あり、使用方法、タイミングをよく確認する。 |
| 軟膏(なんこう)剤 | 薬剤や症状で使用方法が変わる場合があり、使い方をよく確認。 |
| 貼付剤 | 内服ができない場合でも投与可能。かぶれなどに注意。 |

間を薬を少なくしてしまっている。保育士の方々は音に敏感で、子どもたちもことばをきくことができないと天喜びました。
子どもたちの様子調査したところ、2回に1回も病気が長引いたりせず、むしろ欠席する日数は減りました。私たちが小児科医が積極的に関与することで、子どもたちに良い環境をつくり出すことができたのです。
今回の学会でも、同様に地域や職場の分野で成功している事例を多く紹介しました。
——服薬の回数に限りなく、子どもの薬の飲みせ方は大きく変わってきています。
そうすると、例え以前は抗生物質でも、その効果の高さから子どもの風邪などにも多用されていたのですが、最近では耐性菌への警戒からいふん減りました。
いまでは検査機器の進歩により、ごく微量の血液から白血球検査などが可能になり、抗生物質の要・不要も迅速に判断できます。これも学会を通じた、小児科医全体の意識の変化が大きいと思います。



広告 企画・制作=日本経済新聞社クロスメディア営業局

TAKATA

安心品質 安定供給 安全情報

「タカタ」のジェネリック医薬品には、3つのAがあります。

高田製薬

www.takata-seiyaku.co.jp
〒331-8588 埼玉県さいたま市西区宮前町203-1
TEL:048-622-2626【代表】

日本経済新聞広告企画で、『健やかナビ』を連載中
健康な毎日を送っていただくためのワンポイントアドバイス